

「北海道もっと食べようお魚協議会」について

設立趣旨

T P P協定の大筋合意など、世界的に貿易の自由化が進展する中、海外市場へのアクセスの改善により、道産水産物の輸出にとって追い風となる一方で、安価な輸入水産物が増大する可能性もあり、国内流通対策が一層重要となっている。

また、国内においては、嗜好の変化や共働き世帯の増加による調理時間の減少などを背景に魚離れが進んでおり、平成19年には、家庭における食料支出において魚介類が肉類を下回り、その差は広がる傾向にある。

これまで北海道では、魚の消費拡大に向け、漁業者や漁協などと連携して魚食普及活動を進めてきたが、今後、道産水産物を取り巻く情勢の変化に的確に対応し、消費拡大を一層図るため、生産者段階から販売流通、消費など川上から川下まで幅広く連携した、新たな発想による魚食普及の検討を行う。

協議会メンバー構成

- ・働く女性関連団体：NPO法人Fit北海道会議
- ・メディア：(株)あるた出版、北海道バリューズコープ(株)、(株)インサイト、LCCのこたべ、北海道新聞
- ・テレビ局：北海道放送(株)(HBC)、札幌テレビ放送(株)(STV)、北海道テレビ放送(株)(HTB)、北海道文化放送(株)(uhb)、(株)テレビ北海道(TVH)
- ・販売、流通関係者：(株)アークス、コープさっぽろ
- ・食品加工関係者：道産素材盛り上げ隊のメンバー(ハウス、味の素、ミツカン、キリンビール、キッコーマン、カゴメ、雪印)
- ・市場関係者：カネシメ高橋水産、札幌中央水産
- ・漁業者団体：北海道ぎよれん、日本水産資源保護協会
- ・北海道：経済部、水産林務部
- ・国：水産庁、北海道総合通信局

開催概要

第1回(3月18日)

- ・これまでの取り組みについて各参加者から説明
- ・消費拡大に向けた課題を再確認
- ・「魚食普及」に替わるポジティブな言葉の検討

第2回(4月28日)

- ・「魚食」に代わる新たな名称について意見交換
- ・各参加者から本年度実施予定の取組について説明
- ・雑誌等メディアでの取り上げ方の提案

第3回(5月31日)

- ・個々の取組を連携して実施するか意見交換
- ・提言書の骨子説明
- ・共通キャッチフレーズを「今日はお魚！」に決定
- ・協議会名を「北海道もっと食べようお魚協議会」に決定

第4回(6月22日)

- ・本年度の取組についてとりまとめ

今日はお魚！

「今日はお魚！」提言書を提案